

岩瀬海 Umi Iwase

2021年6月15日 インタビュアー：乙戸将司、編集：栗原李佳・櫻井莉菜



(写真上) 学部卒業制作『Closest Imbalance』

名前、出身地、出身学部について教えてください。よろしいですか。

名前は、岩瀬海です。出身は三重県鈴鹿市で、学部は京都精華大学芸術学部造形学科です。

現在の活動や研究テーマについて、お話いただいてもよろしいですか。

現在の活動は、主に彫刻作品の制作を行っています。

秋田に来た経緯や秋美の大学院に進学した理由を教えてください。

そもそも秋美を知ったのが後期入試の結構ギリギリで、そのときに自分のゼミの恩師の方が「秋美すごくいいぞ。」と言っていてちょっと考えるようになりまして。そのとき藝大も一応受けてたんですけど、また別の先生に藝大の先端と秋美を迷ってるということを話したら、「秋田いいぞ」と。そのお二人からすごいプッシュされて、だいぶ心は秋美のほうに傾いて、それでちょっと調べるようになって。今までもずっと専門分野で彫刻ばかりやっ

ていて、周りの環境としてもそういう中にいたので、この大学の学生や卒業生がやることが、僕にはすごい新鮮に思えて、行こうかなと決めました。

学部ではどのようなことをしていましたか。

僕は、高校生の頃からずっと彫刻をしてるんですけど、そのときから一貫したテーマがあって、それがジェンダーなんです。学部の卒業制作では、主にフェミニズムに特化したというか、そこら辺をもうちょっと深くやってみようかなと思っ、そういうのを調べながら、彫刻作品を制作しインスタレーションの形態で発表しました。

今後の活動・展望について教えてください。

今後の展望として、継続的に彫刻作品の制作を行っていくかなと思っっています。また、それと同時に秋田に来たから同じような問題意識を抱えるメンバーと、thinkという団体を最近結成したので、その団体の活動も積極的

に行っていきたいと考えています。学内のみならず外部から参加してるメンバーもいて、僕は彫刻しか作れないんですけど、他の人はラジオをやったり、いろんなことをイラストに描いたりとか、文章を書いたり……みたいな人たちが集まっています。そこでも自分の研究と制作と同時進行で、いろんな形で、アクションを起こしながら、多角的な視点を持って、ジェンダーなどの問題を見ていけたらいいかなと考えています。

最後にオープンキャンパスを見ている人や進学を考えている人へなにか一言ありますか。

秋美の院、ずっと制作してきた人からしたら、すごい刺激的な場所だと思います。なぜかと言うと、院での授業がこれと決まってるわけじゃないですけど、皆で「セッション」という形で、グループで何かしないといけない。しかもその方法がけっこう、皆フィールドワークだったりワークショップだったり異なっているというのが面白いです。院生になって研究のリサーチベースというのが僕にはすごい新鮮で。今

までもずっと一人で黙々と作品制作をしてたところから、急にこういつた所に来て、すごい動揺もありますが、同時にそれがすごい刺激になって、今回団体を作ろうって思ったのも、きっとこういう環境で変化があったからかなと思うので、すごいいい所だなと思います。



(写真上) 学部卒業制作『Closest Imbalance』



岩瀬海 Umi Iwase

プロフィール

1998年 三重県生まれ。
2021年 京都精華大学芸術学部造形学科立体造形専攻を卒業。
現在は、秋田公立美術大学複合芸術研究科に在学中。(修士課程1年生)